

月	4		5		6		7		8		9				
	旬	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中				
普通期	生育期間	は種		育苗		田植	活着期	有効分け時期	無効分け時期	幼穂形成期		出穂期	穂揃期	登熟期間	成熟期
	主な作業	<ul style="list-style-type: none"> ・レンゲすき込み(基肥) ・温湯消毒 ・土壌改良資材施用 		<ul style="list-style-type: none"> ・箱施肥① 		<ul style="list-style-type: none"> ・田植 (5/5 ~ 6/10) ・除草剤処理② 	<ul style="list-style-type: none"> ・落水 (ガス抜き) ・除草剤散布後7日頃 	<ul style="list-style-type: none"> ・中干し ・溝切り ・最高分け時期 	<ul style="list-style-type: none"> ・穂肥 (出穂前28~25日) 	<ul style="list-style-type: none"> ・防除時期③ ・穂いもち病 	<ul style="list-style-type: none"> ・ウンカ・カメムシ防除④ 	<ul style="list-style-type: none"> ・収穫 			
水管理: 除草剤散布後7日頃落水(ガス抜き)を行い、根の機能促進と分けつ促進を図ります。															
収穫適期 (黄褐色籾70~80%) 収穫早限 黄褐色籾比率70% 籾水分28% 収穫晚限 黄褐色籾比率80% 籾水分24% ・適期収穫に努めましょう。															

主な雑草及び害虫

コナギ

ホタルイ

アゼナ

イネカメムシ

イネカメムシ対策
 イネカメムシの特徴は出穂後の若い籾の基部を吸汁し不稔籾発生要因となります。その為、対策としては出穂前に1回、出穂後7~10日に1回の2回防除が必要となります。

穂肥の診断

穂肥時の稲姿と幼穂長

・穂肥は葉色をみて量を加減する。
・穂肥は出穂前(幼穂長2~3mm)頃使用する。

①箱施肥 次のいずれか1つを選択

名称	使用量	使用時期	対象病虫害
防人箱粒剤	1箱あたり50g	播種時(覆土前) ~ 移植当日	いもち病、ウンカ類、もみ枯細菌病、イネミズゾウムシ、イネドロオウムシ、ニカメイチュウ、コブノメイガ
フルスロトル箱粒剤 ※紋枯病に効果あり			いもち病、ウンカ類、もみ枯細菌病、イネミズゾウムシ、イネドロオウムシ、ニカメイチュウ、コブノメイガ、紋枯病
ブーンゼクテラ箱粒剤			いもち病、ウンカ類、もみ枯細菌病、イネミズゾウムシ、イネドロオウムシ、ニカメイチュウ、コブノメイガ

※育苗センターの苗(夢つくし、元気つくし、ヒノヒカリ)は箱施肥(防人箱粒剤)入りです。
田植前に箱施肥を散布する必要はありません。

②除草剤使用基準 次のいずれか1つを散布

種類	名称	10aあたり使用量	使用時期
粒剤 (※田植同時処理可)	キマリテ1キロ粒剤	1kg	田植時~10日 (ノビエ3.0葉期まで)
	プライオリティ1キロ粒剤		田植時~12日 (ノビエ3.5葉期まで)
	ビクトリーZ1キロ粒剤		田植時~10日 (ノビエ3.0葉期まで)
フロアブル (※田植同時処理可)	キマリテフロアブル	500ml	田植時~10日 (ノビエ3.0葉期まで)
	プライオリティフロアブル		田植時~12日 (ノビエ3.5葉期まで)
フロアブル (※田植同時処理不可)	ビクトリーZフロアブル	10パック	田植後5日~10日 (ノビエ3.0葉期まで)
ジャンボ	キマリテジャンボ	10パック	田植直後~10日 (ノビエ3.0葉期まで)
	プライオリティジャンボ		田植直後~12日 (ノビエ3.5葉期まで)
	ビクトリーZジャンボ		田植後5日~10日 (ノビエ3.0葉期まで)

※除草剤処理後1週間は田面が露出しないようにすると効果が安定する。

〔スクミリンゴガイ(ジャンボタニシ)対策〕

(使用しても化学合成農薬成分にカウントされません。)

名称	10aあたり使用量	使用方法	備考
スクミンベイト3	2~4kg	湛水散布	浅水にして、水口、深いところ等タニシの集まる所にスポット処理も有効

その他対策: 生貝の捕殺、卵塊の圧殺、取水口への網設置、浅水管理、厳冬期の耕起等

○施肥基準

時期	すき込み時のレンゲの生育状況	基肥	穂肥
4月下旬~5月上旬(開花最盛期、田植1カ月前)	すき込み	福岡嘉穂ユークン2号(10aあたり)	油粕ベレット10aあたり50kg
施肥	レンゲがほ場の100%~70%以上生えている	施用しない	時期: 出穂28~25日前(幼穂長0.2~0.5mm)施用
	70%未満~20%以上生えている	10~15kg(側条施肥:10kg)	
	20%未満しか生えていない	15~20kg(側条施肥:10~15kg)	
	レンゲは、ほ場の2割くらい生えている、またはほとんど生えていない	30kg(側条施肥:25kg)	

○レンゲの栽培

- は種 10月下旬~11月上旬 (病害虫対策のため早播きはしない) 3~4kg/10a
- は種量 (湿田、遅播きは20~30%増量) (湿田はは種後排水溝を掘る)
- ・酸性土壌に対しては弱いので、pHは6.0以上が望ましい。
 - ・種子が小さいためは種床の凹凸が大きいと発芽や生育にムラがでやすい。地表面を均平にする。
 - ・種子に傷を付けたら吸水が早くなり発芽や生育がよくなる。
 - ①容器に種子と同量の砂を混ぜて砂付きする。
 - ②コンクリートの上に種子を置いて軽く板で押さえこする。
 - ③還流式小型精米機で、10~15分間磨る。
 - ・は種時には場が乾燥しすぎると、発芽が悪くなるので、は種は耕起後では、雨が降る前日または雨が降った翌日に行う。

③穂いもち病防除 次のいずれか1つを散布

名称	10aあたり使用量	使用時期
ダブルカットバリダフロアブル	希釈倍率1000倍 散布液量60~200ℓ	穂揃期まで
ビームソル	希釈倍率1000倍 散布液量100~150ℓ	収穫7日前まで
ビーム粉剤DL	3~4kg	
ゴウケツ1キロ粒剤	1kg	出穂5日前まで (収穫30日前まで)
ゴウケツパック	10パック	

※穂いもち病防除時期: 「ゴウケツは、穂ばらみ期(出穂5日前)まで」「液剤・粉剤は出穂直前」に散布する事が重要です。

④ウンカ・カメムシ防除 次のいずれか1つを散布。但し、条件を満たしている場合のみ、2つまで散布可

名称	10aあたり使用量	使用時期	対象病虫害
エクシード粉剤DL	3kg	収穫7日前まで	カメムシ類 ウンカ類
エクシードフロアブル	希釈倍率2000倍 散布液量60~150ℓ		
スタークル豆つぶ	250g		
ヘリ防除(エクシードフロアブル)	希釈倍率16倍 散布液量0.8ℓ		

必要に応じて次のいずれか1~2つまで散布可
箱施肥でフルスロトルを使用しウンカ・カメムシ対策を2回散布する予定の場合は**クリンチャーバス**と**ワイドショット**は使用できません。

○補正除草剤・防除

名称	10aあたり使用量	対象雑草	使用時期
※クリンチャーバスME液剤	1000ml / 水70~100ℓ	ノビエ 広葉雑草 カヤツリグサ ホタルイ	田植後15日~ノビエ5葉期 但し収穫50日前まで
※ワイドショット1キロ粒剤	1kg	ノビエ	田植後15日~ノビエ4葉期 但し収穫45日前まで
クリンチャーEW	100ml / 水25~100ℓ	ノビエ	田植後20日~ノビエ6葉期 但し収穫30日前まで
クリンチャー1キロ粒剤	1kg	ノビエ	移植後7日~ノビエ4葉期 但し収穫30日前まで
バサグラン液剤(ナトリウム塩)	500~700ml / 水70~100ℓ	広葉雑草 カヤツリグサ ホタルイ	田植後15日~55日 但し収穫50日前まで
バサグラン粒剤(ナトリウム塩)	3~4kg	広葉雑草 カヤツリグサ ホタルイ	田植後15日~55日 但し収穫60日前まで
リンバー粒剤	3~4kg		収穫30日前まで
バリダシン粉剤DL (使用しても化学合成農薬成分にカウントされません)	3~4kg		収穫14日前まで
モンセレンフロアブル	希釈倍率1500倍 散布液量100~150ℓ		収穫21日前まで
葉いもち	穂いもち病対策の剤(ゴウケツ、ビーム)を使用		

特裁米の条件

※こよみに記載している肥料、農薬以外は使用できません。
※こよみ以外の肥料、農薬を使用した場合は必ず報告して下さい。(県認証より除外します。)

肥料・農薬の注文は予約購入で経済効果を上げましょう。

農薬は、散布前に必ず農薬ラベルを確認し、散布時には、天候に注意し、他の作物にかからないように散布しましょう。

この栽培暦はJA米の生産基準を兼ねています。要件を満たさない米穀は区分してJAに出荷しましょう。

肥料・農薬・生産資材の購入はJAから!! 生産履歴は必ず記帳しましょう。